

第20期北九州市青少年問題協議会 第2回専門委員会 議事録

日 時 平成23年6月28日（火）
10:00～12:00
場 所 北九州市役所 特B会議室

出席者

専門委員 大坪 靖直委員長 他9名

本 市 柴田子ども家庭局子育て支援・健全育成担当部長 他11名

会議次第

○ 議事

- 1 「若者の自立支援」に向けて重点的に取り組む事項・解決策等について
- 2 審議日程等について
- 3 その他

審議の概要

- 1 専門委員会委員長及び副委員長の選出
大坪委員が委員長、大島委員が副委員長に選出された。
- 2 「若者」の現状
資料について事務局から説明を行い、それに対する質問や感想、意見交換を行った。

主な発言は次のとおり

- ・ アンケート調査結果について、全てにおいて、親子の関係がとても希薄だということと言えるのではないか。
- ・ 小さいときから親が子どもをよく見るという事に欠けているのではないか。
- ・ 大人になりきれていない親が多いように感じる。
- ・ 親としての教育をどうすればよいか迷っている人がとても多いのではないか。
- ・ 本人と家族と社会、この三つが上手く接点として形成されないと上手くいかないと思うが、その間に入る重要な家族の支援というところが、ちょっと足りないのではないか。
- ・ 発達障害の子どもに対しては、コーディネーターみたいに、継続的にその子どもと家族を支援するようなシステムを作るとよいのではないか。

- ・ 一旦、社会に出て働くが、すぐ、くじけてしまうケースが実は多数いる。そういった時に、またもう一回それを支えていくだけのフォローアップ体制というのが実は大きいのではないか。
- ・ 不登校等その他の問題行動が起こってきている原因の大きなものの一つとして、結局は学力不足があるのではないか。少人数学級を実施するにはいろんなお金がかかるので、そういう辺りを行政の方で考えて頂くとだいぶ違うのではないか。
- ・ 幼少期、少年期にあっては、発達障害に対する認識と対処方法について、ご家庭、と先生方で十分に総理解してもらえると、学力不足の問題もかなりクリアできる部分もあると思う。
- ・ 高校生の親御さんも、子育ての悩みとか、あるいは課題とかを共有できるようなPTA活動をより一層できるようになると、よいのではないか。
- ・ 子どもたちが社会とのつながりをあまり感じてない。社会とどういうふうにつながっているかとか、支えられているかというようなことの認識が薄い。是非、社会とのつながりを認識できるような、インターンシップあるいはボランティア活動をより一層できるとよいのではないか。
- ・ ひきこもりや不登校になる原因の一つには、多様な価値観を持てず、一つの価値観にこだわりすぎる部分があるように思う。多様な価値観を持てるような体験を何かできればよいと思う。
- ・ 働きやすい職場、メンタルヘルスに配慮された職場があれば、せっかく高校・大学と行っているいろんな技術を身につけても、ぱたっとひきこもってしまうというような、もったいないことがなくなるのではないか。
- ・ 幼少期から携帯電話を使い、顔を見て話すコミュニケーションが取れていない影響が、大人になってからくるのではないか。
- ・ 母親たちは、市民センターや児童館で子育てサークルを作って、そこに専門の方にも来ていただいて悩み事を打ち明けたりしている方もいる。
- ・ 幼少期からの食生活、生活習慣、それから子どもに対する接し方が大事。手がかからないからゲームをさせておけばよいのではなくて、子どもと学校や友達のことを話してほしい。ちょっと早起きして、お弁当や朝ごはんを作ってあげてほしい。
- ・ 幼稚園児の頃は、子どもが小さいので働きに行けず、PTA活動もできるが、高校生にもなると、学校の方からもそんなに要請がない。
- ・ 自分の家庭が間違っているというのは、よその人と関わり合いがないと全く分からない。もしいろいろなところに参加してみたいと思っても、生活に追われている現状がある。もう少し子育てしやすい環境があれば、自分のことばかりに追われるのではなく、子どものためにもう少し何か出来るのではないかと思う。

- ・ 担任の先生と親との連携を深めて、相談しやすいような環境作りも必要ではないかと思う。
- ・ 親が子どもの顔色を見ながらいろいろともの言うというような場面が多々あり、そういう辺りをどう行政の方でしていくかが問題ではないか。
- ・ 家族で出かける機会をたくさん幼児期から作り出して、子育てサークル等の集まりを組織化し、そのつながりを思春期までフォローしていくというような事が、学校外の取り組みの中で必要ではないか。
- ・ 地域や社会が家族の代替をしていくという仕組みも重視していく必要があると思う。
- ・ ちょっと距離がある人には自分を出せない子どもたちが増えている。親や学校の先生以外の沢山の大人や、あるいはちょっと上のお姉ちゃんやお兄ちゃんたちに出会う関係をとにかく沢山作るという環境を、乳幼児期から整えていくというような事が、実は全然関係ないようできて、実はそれが整うとかなりの割合で結果的に予防になるのではないか。
そして最終的には、子ども・若者が自分達の社会や条件に関して意見を言ったり、若者が子どもの為に動いていくような仕組みに移行していくというような事を目指していくとよいのではないか。

3 審議日程等について

第2回全体会について、8月頃に開催し、今回までの専門委員会での審議結果を報告する予定。